国際ロータリー第2570地区第１グループインターシティミーティングは川越で

国際奉仕団体国際ロータリー、第2570地区第１グループのインターシティミーティングが6日ラボアラクテで開催された。
川越、東松山、小川、坂戸、越生毛呂、川越小江戸、川越西、鶴ヶ島、坂戸さつき、東松山むさし、川越中央の11クラブの会員が集い、情報交換などをする会議。
今年度の主催者である鎌田政稔ガバナー補佐は、この会議を川越市の広報で告知、市民に公開する会議とした。
会議の記念公園は日本一のおもてなし力、和倉温泉の加賀屋の小田社長(詳細については後日掲載）。国際観光都市川越、東京五輪にむけても市民一人一人のおもてなしが必要とされる今だからこそ、記念講演の市民公開は機にいる敏といったところだ。
JCもロータリーもライオンズもソロプチミストも、地域に密着した奉仕活動を展開している。絆の醸成に一役かっていることに市民も感謝しなければならない。

	国際ロータリーインターシティミーティングに参加の川合市長です ご自身川越中央ロータリークラブの会長経験者

中野ひでゆき県議 後援会メンバーと研修旅行

昨年春再選。二期目に早々と埼玉県議会企画財政常任委員長という要職に就任。若手県議のリーダーということに加えて、県議会の要として辣腕を発揮。

その中野県議を支える後援会主催の寒川神社、熱海梅林への研修旅行は
５８０名近い参加者で、もりあがった。

バスで挨拶された中野県議は「県政での動きをDVDでみなさんに見ていただく。この一日のなかで、地域の要望を聞く。多くの声をあつめさせていただき、それを県政に、川越市のまちづくりにいかしていく。これが目的。企画財政常任委員長として、上田知事から委員会開催の要請があり、予算のことなので急遽本日召集した。ずっと一緒とはいかないが、多くの声をきかせてほしい」と挨拶した。

川合市長も
出発にかけつけ「市民の願い川越線の複線化。中野清先生、ひでゆき先生のお二人にフットワークよく、国へのはたらきかけを先頭にたっていただいている。少しずつでも動くことが大事。」と親子二代にわたる尽力を明らかにした。

地元のために
なにが必要かをアンテナ高く行動する中野ひでゆき県議。頼もしい限りだ。



